

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年10月15日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	愛媛県知事第3870104555号
事業所名	グループホーム ユニットまつやま
(ユニット名)	A棟
記入者(管理者)	
氏 名	高橋 知子
自己評価作成日	平成30年 9月 21日

【事業所理念】 ユニット・ワンの理念『悔いの残らないお世話をさせていただきます』を實踐できるように、「共に育つ」「ゆっくり・一緒に・楽しく」「和かいことば・温かい雰囲気・安心できる居場所」を目標にしている。スタッフ一人ひとりが自分を育てる意識を持ち、より良いケアを目指してチームで協力、努力していくことを目指している。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・近くにある未来保育園の行事に参加する予定を立てたが、保育園でのインフルエンザ流行の為予定を中止となる。保育園の園児へのプレゼントを利用者と作成していたので保育園へ届ける。保育園からも、園児がプレゼントを持って訪問してくれたが、インフルエンザ流行の時期でもあり、玄関での対応となる。季節を選びまた交流を企画したい。地域との交流を広げる目標として、運営推進会議への出席者が少ないので、まずご家族の参加をお願いしたところ、直ぐに参加が増えている。地域に暮らすご家族の方に運営推進会議を通してグループホームの取り組みを知っていただき、地域への働きかけも広げていきたい。ご家族のボランティア参加もあり、今後も地域の方のボランティアの受け入れを広げていきたい。近くにある中央高校の生徒会の方が運動会の案内に来てくださった。今後、中央高校との交流も考えていきたい。災害時の避難協力をお願いしている近くの和光苑も文化祭のお知らせを頂いている。少しずつ交流を広げ利用者が地域に行ける機会を提供したい。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は開設14年目を迎え、田畑が広がる静かな環境の中、周辺には住宅もあり、事業所の花壇を見ながら散歩をする地域住民や子供たちとのふれあいも利用者の楽しみのひとつとなっている。職員がピアノ演奏会や歌謡ショーを行ったり、職員が休日に撮った季節の写真を飾るなど、利用者に日常を楽しんでもらいたいとの思いが伝わってくる会社の理念のほかに、今年は全職員参加で、会社全体のケア目標を作成してそれを事業所の目標とし、温かい雰囲気の中で利用者が穏やかに楽しく安心して過ごせるように取り組んでいる。職員が明るい気持ちで向上心を持って働けるように、内部研修の充実や職員一人ひとりの意見を表すことのできる機会を作るなど、職場環境作りにも力を入れている事業所である。
--	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人の言葉を聞き取ることを大切にしている。また、表情から本人の思いをくみ取る努力をしている。面会時等は本人の様子や思いを伝え家族の思いも聞き取りながらご意向の把握に努めている。	○		◎	普段から利用者との会話を大切にして、暮らし方の希望や意向を確認している。言葉で表しにくい利用者には、表情やしぐさから思いをくんで望んでいることを把握するように心がけている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	入居時に把握していた情報や、ご家族からお元気な頃の本人の思いについて情報を把握するよう努めている。チームで話し合い、「本人はどうか」という視点を大切にしている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族等の面会時には日々の様子や本人の思いをお伝えしている。お元気な頃の様子を伺ったりして本人の思いと一緒に確認している。必要時は電話にて伝えている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人のアセスメントには本人の今までの暮らし方も記録している。日々の個人記録には、本人の声を記録するようにしている。また、共有ノートには、本人の変化した情報等を記録している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の言葉を丁寧に聞き取ったり、表情やしぐさの観察を大切にしている。スタッフ同士で情報を共有し色々な見方感じ方を大切にしている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時には時間を取って本人の様子を聞いている。ケアをするうえで本人の生活歴やなじみの暮らし方、こだわり等が重要だと認識し、入居後も面会等の時間を利用して、本人の情報を把握している。			◎	利用者や家族、入居前に利用していた事業所などから生活歴や馴染みの暮らし方などを聞いて情報を把握している。日々の暮らしの中で知り得た情報は、記録や口頭で伝えて職員全員が把握できるように努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の生活の中で変化していく本人の状態や有する力、それに対するケアの方法を、スタッフ全員で共有できるよう、共有ノートに記録したり、朝の申し送り等で共有し把握している。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	本人の言葉や表情、活動状態をよく観察し、状態を把握している。また、それをスタッフ全員で把握できるよう、朝夕の申し送り時に丁寧に伝え共有し、必要時は共有ノートに記録している。また、カンファレンス時に話し合うようにしている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	適切な言葉で思いを表せないご利用者に対しても、日々そばで関わり表情や言動を観察し、いろいろなスタッフの観察や意見を共有しながら、不安の要因が把握できるように努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	24時間シートに日々の様子を記録している。いつもとリズムや様子が違う時は、共有ノートや申し送りにて情報を共有し、適切なケアにつながるよう努めている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の言葉をよく聞き、状態を観察しながら、本人にとって必要なことは何かを、主治医や家族も含めて相談しながらケアに生かせるよう努めている。			◎	知り得た情報に基づいて利用者が何を必要としているか検討して、アセスメントシートを活用しながら職員全員が把握できるように情報を整理して記入している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ケアプラン作成時にはカンファレンスにて色々な視点から本人のより良い暮らしについて考えている。日頃から家族とのコミュニケーションも大切にして思いを聞いている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアプランには、「本人の望む暮らし」・「本人の困っていること」と記載し、課題を明らかにしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	日ごろより、本人の思いや意向を聞き取り感じ取れるように意識している。				各ユニットの計画作成担当者が、利用者や家族、主治医などの意見や希望を反映した介護計画を作成している。利用者の残存機能を活かしながら、維持できるような内容が盛り込まれた内容となっている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の様子の観察を重視しスタッフ間で共有している。家族とのコミュニケーションを深め計画書について話し合っている。主治医との連携も大切にしている。	○		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	馴染みのスタッフとの関わり、安心できる環境作りを大切にしている。家族との時間を大切にしている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族とのコミュニケーションは重視し、常に一緒に支える関係性を築いている。地域の人達との協力体制はまだ難しい状態である。				
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケアカンファレンス時には、なるべく多くのスタッフの意見を聞くようにしている。個人の日々の記録にケアプランが記載されており、毎日チェックしながら記録をしている。			◎	毎日の経過記録に介護計画の内容が表記されており、介護計画に沿ったケアが実践できたか確認して結果を共有できるようになっている。日常の様子を丁寧に記入しているが、さらに職員の気づきや工夫などの記録にも取り組んでいきたいと感じている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	個人の日々の記録にあるケアプランを実践できたらチェックしている。担当者が月に1度複数のスタッフと話し合ってモニタリングを行っている。カンファレンスの時には実施状況を話あって確認している。			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個人の記録には、本人の言葉をそのまま書くことを大切にしている。重度化した方の暮らしの様子の観察が不十分で同じような記載になってしまう。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	ひとり一人についてのスタッフの気づきや工夫、を朝夕の申し送り時に話し合い、まずやってみようと、取り入れている。記録は不十分である。			△	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間に応じてカンファレンスを開き見直しをおこなっている。退院時等必要に応じて見直しをおこなっている。			◎	毎月ユニット毎に職員がそれぞれの利用者について話し合い、現状を確認しながらモニタリングを行っている。介護計画は6か月毎に見直しを行っているが、利用者の状態に変化があった場合などはその都度検討し、現状に合った介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	担当者は、月に1度、複数のスタッフと話し合いモニタリングを行い、計画についての評価を行っている。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状況が変化したり、入院等があった場合は、家族、主治医等に相談をし、随時見直しを行っている。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	朝夕の申し送り時には、必要なことをその都度話し合い、状況や対応に変化がある場合は、共有ノートにてスタッフ全員と共有する。			◎	朝夕の申し送りのほかにも必要時には話し合いを持って検討し、情報を共有している。申し送りや会議の内容は、職員全員が把握できるように確認後、サインをして確認漏れがないように徹底している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	朝の申し送り時は、自由に発言できるような雰囲気作りに努めている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	カンファレンスは、月に2回開催し、多くのスタッフが参加できるようにしている。参加できないスタッフも、メモにて意見を伝えている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	カンファレンス記録は、全体の共有ノートに貼付し、スタッフ全員で共有している。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	朝夕の申し送りはご利用者ひとり一人について丁寧に申し送りをを行い情報を共有している。事務的な共有ノートと、ご利用者についての共有ノートがあり、整理して共有している。			◎	申し送り事項については、内容によってノートを分けることで職員全員が把握しやすいように工夫している。管理者会議の議事録も簡潔にまとめて職員が確認できるようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	ご利用者についての共有ノートと事務的な共有ノートがあり、重要な情報は記載してスタッフ全員で共有している。	○			

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	ご利用者の意思がはっきりしている方については、ご意向を確認して、できるだけ意向に沿えるようにしている。ご意向を示すことが困難な方については不十分である。				利用者一人ひとりのその日の気分や意向に沿って、自己決定してもらいながらそれぞれのペースで過ごせるように支援を行っている。職員は、利用者が穏やかに笑顔で過ごせるような雰囲気や場を作るように心がけている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	できるだけ選択できる場面を作っている。「ゆっくり・一緒に・楽しく」を目標に本人の意思を尊重している。			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自室でゆっくり過ごす方、テラスを散歩する方、玄関のお気に入りの場所で過ごす方、テレビを見て過ごす方、馴染みの人とお話しを楽しむ方、本や新聞を読んだり、好きな塗り絵を楽しむ方等それぞれが思い思いに過ごせるように支援している。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	基本のスケジュールはあるが、個別ケアを重視し、ひとり一人のペースに合わせて生活できるように支援するのを目標としているが、スタッフにより、職員の決まりや都合を優先してしまう場合がみられるので今後の課題である。				
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	△	「ゆっくり・一緒に・楽しく」を目標に「和らかな言葉・温かい雰囲気・安心できる居場所」に努めている。			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	言葉が少なくても、瞳の状態が穏やかか、肌の状態や表情、全身状態を観察し、本人の思いを感じるように配慮しながら声掛けケアを目指しているが困難な場合もある。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	「尊厳と自立支援」について、学ぶ機会を多く持ち、人として大切にされる。できないことはさりげなく支援する。ということを常に意識するよう努めている。	○	◎	◎	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを大切にして、常に尊厳の気持ちを持って支援を行っている。職員の対応の違いはあるが、気になることがあれば話し合って前向きに改善していきたいと取り組んでいる。居室は利用者のプライベートな場所であることを認識しており、入室時はノックや声かけをしてから入るよう配慮している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	支援が必要なご利用者は、それぞれ長い人生を一生懸命生きてこられた方だという意識をを忘れないようにしている。しかし、スタッフのレベルの違いがあ。今後も学ぶ機会を持ちレベル向上を目指したい。			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら、安心できる関係性の構築に努めている。				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	居室に居る時は、ノックをしたり声をかけて入室している。本人が外にいる場合は、声をかけ入室する了解を得ている。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入居時には個人情報保護について書面について確認している。職員は守秘義務について理解している。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	介護は共同作業だと認識している。信頼関係を築きながら行き感謝の気持ちを伝えている。また、教えてもらったり、癒されたりすることも多く、スタッフの喜びとなっている。				利用者同士の関係や性格を把握して、トラブルを未然に防ぐことができるように配慮している。職員が明るく和やかな雰囲気を作っており、利用者同士も相手を気遣う声かけをしたり、関わりを持って過ごしている。トラブルになりそうな時は、利用者それぞれの気持ちを理解し配慮した支援に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	気の合うご利用者が良い関係を築くことができるようさりげなく支援することを重要と考えている。仲間がいる喜びを感じることができるような支援に努めている。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	△	トラブルになりそうな時は、早めにさりげなく支援し、お互いの気持ちを理解し、それぞれの気持ちが生かされるような支援に努める。(ご利用者が良かれと思ってしたことがトラブルになる場合等) スタッフによっては対応が難しい時がある。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	△	それぞれの思いを大切に、さりげなく支援し、必要であれば個別に時間を持って支援する。スタッフによっては困難なこともあり、今度の課題である。				

愛媛県グループホームユニットまつやま

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	キーパーソンとの信頼関係を築きながら、本人の関係者についてはできるだけ多くの情報を把握するように努めているが、まだ不十分である。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	キーパーソンとの信頼関係を築きながら、本人の情報をできるだけ把握するように努めているが、地域との関係や馴染みの場所などは全員は把握できていない。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	家族の支援を受けれる方は、家族の協力でできているが、スタッフの対応は難しい。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	キーパーソンと連絡を取りながら、いつでも気軽に訪れることができるような雰囲気作りを心がけている。毎週の面会、定期的外出の協力のあるご家族がいる。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。（職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない）（※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む）	×	多くの利用者が日常的に戸外に出て過ごすことは難しい。が、天気の良い日は希望する方にはできるだけ庭先での日光浴や散歩を心がけている。季節の良い時期には、ドライブに出かけて季節を感じられるよう支援している。	△	○	△	利用者一人ひとりのその日の希望に沿うことは難しいが、事業所周辺の散歩やドライブなどは積極的に行っている。重度の利用者も中庭に出て外気浴をしたり、外の空気や季節を感じられるように支援を行っている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	屋内でのボランティアの支援はあるが、外出支援はなかった。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	天気の良い日は庭での日光浴は試みている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	普段は行けない場所には、出かけられていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	外部研修の参加や内部研修を行い、日々学んでいる。朝の申し送り時でも気になることは相談したり、良いことも上手いかなかったケアも共有しスタッフ全員で取り組む意識を持っている。	/	/	/	毎日の体操や塗り絵など、日常生活の中で利用者それぞれのペースで、できることを行っている。両ユニットと中庭を散歩することが日課の利用者もあり、歩行状態と下肢筋力の低下防止につながっている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等）を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	座位の状態・食べる状態の観察を大切にしている。目の輝きや皮膚状態等全身の状態の観察に努め、状態の変化を主治医・家族に相談し、できるだけ状態が維持できるようにケアの方法を工夫している。歯科医師による「口腔ケア・嚥下」勉強会、業者による「オムツのあて方」勉強会を開催して学んだ。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。（場面づくり、環境づくり等）	○	「ゆっくり・一緒に・楽しく」を目標に、それぞれに合った「できる環境作り」をさりげなく行うように配慮している。（洗濯物たたみもできそうな種類で分ける等）	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	個々の生活歴やこだわりを重視している。本人の楽しみや活躍できる役割の把握に努めている。（洗濯物たたみ、机拭き、トイレトーパーチェック等）	/	/	/	動物の世話や洗濯物たたみ、裁縫など利用者一人ひとりの楽しみや得意なことを把握し、日常の中でそれを活かせるように支援を行っている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	それぞれの楽しみや得意なことを把握し、さりげなく生活の中で力を発揮できるように支援し、感謝の気持ちを伝える機会としている。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地方祭、ボランティアを受ける楽しみはあるが、地域の行事に出かけていくことがない。	/	/	/	

愛媛県グループホームユニットまつやま

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	本人の意向を大切にしている。ちぐはぐな服を選んでいたりする時は、さりげなく支援したり整えている。				食事の食べこぼしがある利用者にすぐに介助用エプロンで対応するのではなく、さりげなくタオルを使用するなどプライドを大切にしている。重度の状態にあっても、家族と相談しながら服装など本人らしさが保てるように支援を行っている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	△	本人・家族と相談して整えている。髪のカットの時は、本人に希望を聞いている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人らしさが出るように配慮している。自己決定が難しい利用者にも、必ずコミュニケーションを取り、その表情から意向をくみ取るようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出の時は普段と違う装いになるように選び楽しみとしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしておしゃれなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	着衣等が整えられなくなったり、こだわりがなくなった方も、さりげなく整え本来その方が望んでいた状態を維持できるようにしている。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	家族と相談して対応している。家族と一緒に理容院に行く方もいるが、訪問理容を利用している方が多い。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	できるだけ本人が好むだろうものを家族と相談して整えている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食べることの重要性を理解している。食べることが楽しみになるように声掛け、雰囲気作りに配慮している。				献立は食材宅配業者の栄養士が作成し、特定アレルギーについても献立表に表示されている。食材は業者が配達し、利用者と一緒に買い物に行くことはないが、机拭きや食後の下膳などができる利用者には、なるべく取り組んでもらえるような支援にも努めて欲しい。調査日は月に1度の行事食の献立の日で、芋炊きの具材を利用者と話したり、季節の献立を楽しんでいる食事風景が見られた。箸や茶碗は利用者が使っていたものや使いやすいものを使用している。職員と一緒に食事はしていないが、利用者のことは常に見守り会話をしながら和やかな雰囲気ですべての食事ができるよう努めている。食材は業者が配達し、1つのユニットで利用者全員分の食事をまとめて作っているため、重度の利用者も調理の匂いや音を感じられるようになっている。利用者の食事のことについては、主治医や家族等とも相談しスタッフ間で情報を共有しながら、バランスの取れた栄養が摂れるよう支援している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともに行っている。	△	机拭きや、食後の下膳はできる方は自分で行っている。お楽しみ献立のメニューはご利用者の意見を取り入れている。買い物や調理はできていない。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	現状では行えていない。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	毎日の食事の支援により把握している。台所に、個々の食事形態・好き嫌い・アレルギーのチェックリストがある。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	業者の献立を利用している。行事の食事はご利用者の意見を取り入れている。準備時より昔の話が盛り上がり楽しみとなっている。その日の献立の内容をホールに貼りだしているの、楽しみに見る利用者がある。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者ひとり一人の状態に合わせた調理法としている。食器等はできるだけ陶器のものを使用し、料理に合わせて小鉢等を使用し、見た目も大切にしつつ食べやすいように盛り付けている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	それぞれの状態に合わせて食べやすいように食器や箸スプーンを選んでいる。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	食事介助が必要な方がいるので一緒に食べるのは難しい。介助をしながらも、テーブル全体は見守り、ひとり一人の状態の把握に努めている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	主治医や家族とも相談して本人の状態に合わせた食事の形状とする。献立の内容を伝えながら食事介助を行っている。テレビを消してヒーリング音楽をかけ落ち着いた雰囲気の中で食べることができるよう配慮している。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	個々の状態に合わせた食事量としている。水分摂取量も個々の状態に合わせて量を把握し確保できるよう支援している。食事・、水分量の記録を見直したので分かり易くなった。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	スタッフ間での情報の共有に努め、主治医や家族とこまめに相談しながら本人にとって良い状態が保てるように支援している。水分摂取量が少ない利用者には、時間をおいてこまめに勧めることで、必要量を確保できている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士がたてた業者のメニューを利用している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理担当のスタッフが責任を持って対応している。検食を3日間保存している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの研修を行っている。定期的に歯科医が訪問して指導を受けている。定期的に配布される口腔ケアについてのポスターをホールに貼付し活用している。				毎食後の口腔ケア時に利用者の口腔内の状況を確認し、利用者の口腔内の清潔が保てるよう支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	口腔ケアの際に確認している。必要時は家族・歯科医に相談して対応、おいしく安全に口から食べることができる支援を心がけている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	定期的に歯科医が訪問しており指導を受けている。自立で口腔ケアを行っている方は、正しい口腔ケアが行われているか十分に把握できていない。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	△	口腔ケア時は、ご利用者の状態に合わせ、介助を行っている。自分で行う方は、適切な手入れができていないか十分に把握できていない。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	○	口腔ケア時は、ご利用者の状態に合わせ見守り介助を行っている。できるところは自分で行えるように支援している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	口から美味しく食べる重要性を理解している。異常がある時は、家族、歯科医に相談して早急に対応するように支援している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄の支援が、本人の尊厳を守る支援であることを理解している。				安易にオムツを使用するのではなく、利用者の状況に応じて見直しをしたり、工夫しながらなるべくトイレで気持ちよく排泄できるように、利用者一人ひとりに合わせた排泄支援を行っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘が生活に重大な影響を及ぼすことを理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	排泄の状態把握の重要性を理解し、日々の排泄支援において把握し、スタッフ間で共有している。排便チェック表を活用している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	本人の状態を観察しながら、昼間はできるだけトイレの使用を試みている。髪パンツ等の使用の変更についてはスタッフ皆で相談し、ひとり一人の状態にあった使用を心がけている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	本人の状態観察と、排便チェック表を活用しながら、主治医・家族と相談し、状態の改善が行われるように工夫している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々のリズムを把握し、早めの声掛け支援を行っている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人や家族と相談しながら選択している。業者のサンプルパットを試用してもらい、家族と相談して新商品に変更された方もいる。日中は活動し易いように、夜間は良眠し易いように選択している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	個別ケアが重要だと考えているので、個々の状態に合わせて使用している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	水分摂取量の把握、日中は活動し易い工夫、個々の状態に合わせて冷たい牛乳や少し温めた牛乳を出している。主治医との連携も密に取り必要時は薬も使用している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	○	週に2回メンバーを決めて入浴しているが、体調不良や本人の希望がある時は、日を調整する。季節に応じて湯の温度を細かく調整したり、入浴剤を変更したりしている。温度や長さは基本本人の好みに合わせているが、配慮が必要な場合は支援している。	◎		○	週に2回の入浴日となっているが、体調や希望に応じて曜日をずらすなど柔軟に対応している。入浴補助用具を使いながら、安全に気持ちよく入浴できるよう支援に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	お風呂が一番楽しみという方もたくさんおり、入浴の重要性を理解しており、楽しみの時間になるように支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	常に安全に注意して見守りは行いながらも、本人の力が活かせるように支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	個々の気持ちの理解に努め、人前で誘わない、お願いをする、さりげなく誘う等様々な工夫をしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	朝のバイタルチェックを基に、夜間の状態、入浴前の状態等を把握し、気になる時は看護師等に相談している。入浴後は水分補給や休息・見守りの配慮をしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜勤者は、2時間毎の巡視を行っている。気になる方は訪室回数を増やし睡眠状態を確認し記録している。朝・夕の申し送り時に生活のリズムについて情報を共有している。申し送りを受けてケアも配慮をしている。				夜間の不眠が見られてもすぐに眠剤など薬剤を使用せず、1日の生活リズムや環境を整えて夜間の安眠につながるよう支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	朝夕の申し送り時には、生活の様子、排泄の様子、スタッフの関わり方、他ご利用者との関わり、認知症の症状、その他様々な角度から情報を共有し、夜間良眠につなげる工夫に取り組んでいる。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	睡眠剤を使用している利用者はいない。主治医も生活レベルの低下予防、転倒予防の為に薬に頼らない又は必要最小限の使用との指示がある。まず、環境整備(スタッフの対応も含む)を工夫することが重要だと考えている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	個々の個室の他に、ソファや玄関のスペースに椅子を置きそれぞれが好きな時に利用している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	本人や家族の希望がある場合は、希望する時に電話ができる支援をしているが、利用する方はほとんどいない。年賀状や季節の便りをいただいた時は、個々の状態に合わせて本人が理解できるように支援して家族との繋がりを大切にしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	七夕の短冊や、書初めの言葉等が書けるように支援している。その内容を家族に伝え、本人の家族に対する思いを伝えている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	日頃より家族とのコミュニケーションは大切にしている。必要な時は、いつでも電話ができるように支援できるが、利用する方は少ない。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙等は、本人と家族との大切な繋がりであり、大切に扱っている。家族以外からの手紙は、キーパーソンに伝え繋がりを保つことができるように支援している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	本人が電話をかけることについては、必要な時は家族とよく相談して理解を得たいと思う。7名の方は定期的に面会に来られている。2名の方については、家族の事情もあり困難である。今度、コミュニケーションを深めていきたい。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	本人がお金を大切に思う気持ちは理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	現在は、家族と相談のうえ、家族が管理している。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	利用者が買い物に行く時はスタッフも一緒なので、困らない支援を行っている。今後、よく行くスーパー等には利用者が自分の力を発揮できるように、買い物先の理解や協力を得る働きかけを行ってきたい。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	現在は、家族と相談のうえ、家族が管理している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	現状では行えていない。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	基本、家族に管理をしていただいている。家族が管理できない場合は、家族に書面上で同意の上、会社が預かり管理している方もいる。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	常に家族と相談しながら、本人にとって良い方法を工夫して対応している。必要時は定期受診の対応、家族の相談ごと等にも対応する。	◎		○	毎週自宅に帰りたい利用者の希望を叶えるなど、利用者や家族の意向に沿った柔軟なサービスにも取り組んでいる。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物周りに外壁はなく、オープンな雰囲気である。庭には木や草花を植えている。玄関はガラス戸で明るい雰囲気である。	◎	◎	○	玄関はガラス戸になっており、外の様子を見ることができる。玄関ホールのソファに座って花壇を見たり、事業所の前の道を散歩する地域の方や子供たちとの交流を楽しみにしている利用者もあり、開放的な雰囲気になっている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごうな設えになっていないか等。）	○	平屋で中庭を囲んだコの字型の建物である。中庭にある大きな木が居間からよく見える。天窓があり明るい。広い居間には季節を感じられるような作り物を施している。玄関には椅子を用意しているので、外の景色を眺めたり日向ぼっこを楽しんでいる。	○	◎	○	リビングにはソファや畳コーナーがあり、お気に入りの場所でくつろげるようになっている。テレビを日中つけっぱなしにしないよう、静かに落ち着いた時間も作るように配慮している。リビングから中庭の木々を眺められ、季節を感じることができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	ホームの前は田畑で、車の通りも少なく静か。平屋で天窓があり明るい。朝に夕に場所を分けて掃除をしている。食事の時はテレビを消しヒーリング音楽をかけている。			○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	玄関やテラスからの眺めが良い。玄関前は田畑が広がり、季節を感じることができる。中庭の木や玄関の草花からも季節を感じることができる。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	人との関わりを大切に思っている。気の合うご利用者同士で過ごせる時間を大切に思っている。気の合うご利用者との時間を楽しめるようにさり気なく支援している。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	トイレや浴室は居間からは直接見えないようになっている。プライバシーには配慮している。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時に家族と相談しながら、馴染みのものを持ってきていただいている。筆筒や飾り物や写真等、それを話題にして昔話を楽しむこともある。	◎		◎	ベッドとクローゼット、木製のたんすが備え付けてあり、馴染みのものや思い出の写真が置かれ居心地の良い空間になるように配慮している。各居室に洗面台もあり、自室で整容したり身だしなみを整えることができる。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレには分かり易い表示をしている。自分の居室も入り口に名札を置いている。必要な方はそれ以外にも目印になるようなものを貼り、自分で好きな時に部屋に帰れるように工夫している。			◎	居室入口には名札や利用者それぞれの写真を貼るなど、自室が分かりやすいように工夫している。裁縫の得意な利用者には衣類の修繕をしてもらったり、それぞれのできることや力が活かせるような支援を行っている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	筆筒や机の上に自分で服を出したままにしているのを見て、誰かが入って触ったと不安になる方は、さりげなく整理整頓をして不安を解消している。部屋に入る時は、必ず本人に声を掛けている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	新聞やチラシ、本、裁縫道具、趣味の道具(塗り絵、パズル等)はご利用者がいつでも手に取れる場所に置いてないが、それぞれの興味ある活動ができるように、スタッフがさりげなく傍に置いたり声掛けて活動ができる様に支援している。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	玄関は、常に見守りができないので普段はロックをスタッフがリモコンで操作している。スタッフが常に見守りができる時は解放していることもある。居室は自由に出入りしている。	×	×	×	安全面を重視して玄関はオートロックになっており、家族にも説明している。外出希望のある利用者には職員が付き添って散歩をするなど対応している。今後は玄関を開放し、利用者が自由に出入りすることができるような取り組み等も検討して欲しい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	利用者の安全優先の為と家族には説明しご理解を頂いている。玄関のカギをかけないということについて、話し合う機会を今まで持っていなかった。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	職員が一緒に過ごすことができる時は、玄関のドアをオープンにしている。地域の行事の時もオープンにして一緒に楽しんでいる。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や 病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	病歴については個々のアセスメント表にて把握している。訪問診療や病院受診時の情報も共有ノートにて把握し、個々の状態の変化を把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	朝・夕の申し送り時に、個々の変化について丁寧に情報を共有し、必要時は個々の日々の記録、共有ノートに記載している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	グループホーム内の看護師との情報の共有を大切にしている。気になることがあれば、早め早めに相談して指示をいただいている。				
31	かかりつけ医等の 受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	主治医は本人・家族の希望により決めている。本人の状態の変化によっては、本人がより、安心してグループホームで過ごせるように家族と相談して主治医へ変更することもある。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	医療連携を重視している。本人・家族と医療・グループホームが常に連携を取り適切な医療が受けられるように情報の共有に努めている。訪問看護時は丁寧に情報を提供し、受診時は手紙等にて情報を提供している。必要時は受診に同行することもある。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	基本、受診は本人・家族・スタッフ同行が望ましいと考えているが、家族のみ、スタッフのみの同行となる場合も、受診前に情報を共有し、受診後も速やかに情報を共有するようにしている。				
32	入退院時の医療機関との 連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院前の状態のアセスメント情報を渡している。また、入院に至る経緯について、最新のアセスメントについても伝えて本人の混乱が少しでも軽減するように努めている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院時より、病院の地域医療連携室と連絡を取り、情報の共有に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	入院中も、病院を訪問して本人の状態を把握し、地域医療連携室と情報を共有し、退院に向けての相談をしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	スタッフはグループホームの看護師との情報の共有を大切にしている。必要時は看護師より主治医へ相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	×	9月より、24時間の医療連携体制加算は取っていないが、再度24時間医療連携体制加算が取れる体制を目指している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	朝・夕の申し送り時に個々の利用者の気になることを共有して申し送り看護師に相談したり、必要時は早めに医療機関の看護師に相談して異常の早期発見につなげている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	全員の利用者の全ての薬の把握はできていない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	毎食後の薬を個人の名前を書いた場所に入れて管理している。全ての薬に名前を記入している。個々の状態に合わせて介助や見守りをおこなっている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	本人の状態の観察は全スタッフで行い情報を共有している。必要な時は看護師や主治医に相談している。特に薬の処方に変更があった場合は、細やかな観察で本人の心身の安定につながっていない場合は直ぐに主治医に相談する。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	処方変更の場合は、看護師・主治医へ服薬後の状態の変化を伝えている。また、家族にも状態の変化を伝えている。また、薬局との情報共有にも努めている。				

愛媛県グループホームユニットまつやま

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時には重度化した場合の看取りの指針について説明している。家族とのコミュニケーションを大切にしている。日頃より本人の状態を伝え、元気な頃より将来について本人の希望・家族の希望をお聞きする機会を大切にし、意向を確認している。				看取り支援を行っており、終末期の意向を確認し情報を共有するため事前指示書を家族に記入してもらっている。医師や看護師、職員が利用者や家族の方針を共有し不安や思いに寄り添いながら、穏やかな終末期を迎えられるよう支援に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	常に、本人・家族と医療機関そしてグループホームが情報を共有し、相談を重ねることが本人・家族の望む終末期につながると考えている。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	グループホームでできること、できないことについての情報は家族・医療機関との相談の時に説明している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	看取りをおこなう場合は、看取りの指針を基に丁寧に説明し理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	終末期は特別なことではなく、日々の生活の先にあるものと捉え、今後の変化に備え、家族・医療機関への情報提供を密におこない、コミュニケーションを重ね、連携を強化し、できるだけ本人や家族が安心できる生活を目指してスタッフ全員で日々のケアについて相談しながらチームで支援している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	◎	機会あるごとに家族とコミュニケーションを大切にしている。電話・手紙・面談等で常に情報を共有し信頼関係を築いている。本人をととしての、家族のプライベートの事情等も相談を受けている。。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	外部研修に参加している。内部でも看護師による感染予防の研修にて学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	研修で学んだ手順を紙面にて皆が確認できるところに掲示している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	行政からのお知らせはその都度確認している。主治医からも常に情報提供があり、早めに対応している。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	新聞、テレビ、行政、主治医、感染委員会からの情報等により早めの対応を心がけている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤時は手洗いを行っている。体調管理表があり、その日の体調を自己申告し、マスクの着用等早めの管理をして感染予防に努めている。日頃から、職員・利用者共に手洗いを励行している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族は、本人の大切な方であり、本人を支えるチームの一員であると捉えている。				家族に事業所の行事を案内し、参加できる機会を作っている。面会に来る家族も多く、家族がボランティアで演奏会を行ったり、事業所と関わりを持っている。来訪する機会が少ない家族にも日常の様子を伝えたり、報告を行っている。毎月の家族への便りにより、職員の異動や事業所の運営上のこと等を報告している。面会時には家族が希望を言いやすいよう職員から声かけを行い、毎月作成送付している事業所便りにも、家族が相談しやすいような一言が添えられているなど配慮している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	○	家族は本人にとって大切な存在であり、本人を支援していく上での重要なチームの一員と考えている。面会に来やすい雰囲気作りを心がけており、本人の様子を伝えコミュニケーションを深めている。居室やホールで落ち着いて過ごしていただいている。宿泊の実績はない。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	○	雨だれコンサート、ソーメン流し、運動会、秋祭り、地域運営推進会議等の行事には声をかけ参加してくださる家族も多い。ドライブや外出も家族の協力があるが、限られている。	○		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	◎	毎月、全員の家族に日常の様子の写真載せたお便りを発送している。各担当者が定期的に利用者の様子を手書きの手紙にてお知らせしている。	○		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	ケアプラン更新時や面会時に状態の報告をおこない、気になることがある時は、その都度個別に相談報告をしている。遠方の方や来訪の機会の少ない家族には、電話やお手紙にて相談報告を行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	本人のこれまでの生活の様子をお聞きする中で、家族との関係の理解にも努めている。本人が家族のことを忘れてきている。本人の状態が変化している等、認知症の進行に伴う家族の戸惑いについて、面会時や電話等で本人の状態を伝えつつ、家族の気持ちに寄り添い、本人との良い関係が築けるように支援している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	◎	毎月の家族へのお便りにてその都度報告している。	×		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	△	現在、家族会はない。運営推進会議や行事等で触れ合うことはある。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	できるだけ自分のできることは自分でできる様に支援しているが、転倒のリスクも大きい。見守り、環境整備等の支援について伝えつつ、リスクについても伝えてご理解をいただいている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時は、必ずスタッフが本人の様子を家族に伝え、家族からの気になること等、家族の思いを聞くようにしている。玄関には「意見箱」を設置している。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	具体的に内容を説明して理解、納得を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居については、家族、本人にとって一番良い選択肢になるように相談し、納得のいく退居先に移れるように支援する体制がある。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	△	契約時は、契約書に沿って丁寧に説明して同意を得ている。変更事項は文章にて示し同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいや ネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する 市町の日常生活圏域、 自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	事業所設立当初から、地域運営推進会議等をとおして、事業所の様子や取り組みを伝えているが、それ以外の交流が少ない。	/	◎	/	散歩の際や、事業所周辺で地域の方たちと日常的に挨拶や会話を交わしているが、地域とのつながりができるまでには至っていないので、行事等へ参加し住民との交流を積極的に行うなど、地域との交流が深められるような取組みに期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	近隣の方とは、通勤途中や散歩時に挨拶や短い会話を交わすが、それ以上の交流までには至っていない。小さなお子さんを連れて散歩の途中に立ち寄ってくれる方がいて、利用者もスタッフも楽しみにしている。	/	△	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	今後の課題である。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	地域運営推進会議に出席して下さる方、ボランティアに来て下さる方は、気軽に立ち寄って下さるが、今後も増えていくよう努力する。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩時に挨拶や会話を交わすが、日常のお付き合いまでにはなっていない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	×	ご利用者の日常的な活動の支援までは働きかけることはできていない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	一人ひとりの地域資源の把握は不十分である。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	△	災害時は、地域の福祉施設に協力を得ることができる関係である。今後は、その福祉施設の行事に参加する等、交流を深めていきたい。消防署へは年2回の非難訓練時や運営推進会議出席時にグループホームの状況を説明し、理解を得ている。他の地域の方々への働きかけは今後努力していきたい。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	少しずつ新しく参加してくださる方が増えているが、地域の方の参加を増やしていくのが課題である。ご利用者は毎回数名参加している。ご家族の参加も開催日を検討することで増えている。	○	/	○	家族が参加しやすいよう開催曜日を調整するなど工夫している。運営推進会議では、外部評価結果や目標達成計画等の取組み状況についても報告し意見交換を行っている。運営推進会議で出た意見については話し合い、運営に活かせるよう努めており、取組み状況については会議で報告している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	運営推進会議にて毎回、利用者の生活の状態、グループホームでの取り組みについて報告している。自己評価・外部評価・目標達成計画についても報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	頂いたご意見については、次回の運営推進会議にて状況を報告している。長寿介護課・ユニット・ワン事務局にも伝えている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	テーマに合わせて声をかける方の都合の良い曜日を配慮している。ご家族の都合の良い日に合わせることで、格段に参加が増えている。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	運営推進会議の内容を、玄関には張り出しているが、ホームページ等には公表していない。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	ユニット・ワン全員で、理念に基づいた新たなケア目標を考えて、決めた。全スタッフは理念を理解し、個々の目標を掲げ、日々取り組んでいる。毎月自己評価を行い、半年に1回管理者と目標の振り返りを行い達成状況を確認する。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	毎月のお便りや地域運営推進会議にて、毎回理念・目標と、日々の取り組みについて伝えている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	各スタッフは、最低年に3回の研修を義務付けられており、研修参加のための年間予算も組まれている。法人内での研修も数多く開催され、スタッフが参加し易い環境である。外部研修はスタッフに合った研修を勧めている。	/	/	/	代表者は内部研修の充実や外部研修参加への支援を行っており、職員が向上心ややりがいを持って働けるような職場環境作りに取り組んでいる。心理カウンセラーの面談を職員全員が受けられるようにしているほか、職員が要望すれば代表者との面談がいつでもできるなど配慮されている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	朝の申し送り時に繰り返し、理念や目標について伝えチームの方向性が同じになるように取り組んでいる。現場で起こっている様々な問題を取り上げ内部研修を行い、スタッフ全員参加で意見を出して皆で振り返りを行っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	年に2回自己評価、管理者評価を代表に提出し、代表による個人面談を行っている。そこで、個々の意見を聞き、職場環境・労働条件の整備に反映したり、本人のモチベーションがアップするような場になるように努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域密着型サービス協会、ケアマネ連絡会、研修等にてつながりを広げている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	介護労働安定センターのカウンセラーの面談を全職員が順番に受けることができる。必要時は、代表者との面談もいつでも可能であり相談ができる。	◎	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	外部研修に参加している。内部研修も積極的に行っている。3か月に1度、高齢者虐待防止についてのミーティングを行っており、繰り返し学び理解を深めている。	/	/	/	虐待やどのような言動が不適切なケアにあたるか、それにつながる理由を職員一人ひとりが考える機会を作っている。防止策を内部研修で学んで情報を共有しており、対応手順も話し合っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	朝・夕申し送り時、日々のケアについて話している。日常的に2～3分でもケアについて振り返ったり話し合ったりする機会を意識して持っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	朝の申し送り時や内部研修等を通して、理念や目標を確認し、常に意識できるように努力している。3ヶ月に1度虐待についての内部研修を行い、不適切なケアについてさらに全スタッフの理解が深まるよう努力している。	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	ケアはチームで行うものと考えている。、スタッフが困難だと感じているケアはスタッフ同士、相談しあったり、交代したりできる関係であり、必要時はリーダーや管理者に相談できる。	/	/	/	
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	虐待防止・身体拘束の適正化の研修は受けているが、全スタッフの理解を深める努力はこれからも必要である。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	3ヶ月に1度の「虐待防止・身体拘束の適正化」の内部研修時に、点検の機会を設けている。日常的にも、その行為が虐待・身体拘束に当たらないか意識している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	家族に丁寧に繰り返し説明し、理解を得る努力をしている。取り組みの工夫やリスクも含めて丁寧に伝え、コミュニケーションを取り信頼関係を築く努力をしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	研修を受けている。全スタッフへの周知の努力が今後必要である。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	対象となる利用者はいないが、必要時はいつでも相談にのることができる。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センター、社会福祉協議会とはすぐに連携が取れる。ユニット・ワンの弁護士にも相談できる。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	緊急時の連絡体制のマニュアルがあり、全スタッフが周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	応急処置のマニュアルがある。利用者個々の発症し易いリスクは常に意識しており、日常的に、看護師等と情報を共有して対応できるようにしている。傷等と応急処置ができるように救急ボックスも用意している。今後、定期的な訓練を内部研修として行いたい。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ユニット・ワン共通のインシデント・アクシデントの報告書があり、早めの対応で事故予防に役立っている。事故報告書は朝・夕の申し送り時等によりできるだけ多くのスタッフの意見をまとめ対応策を考えている。代表にも報告書を提出し、対応についての指導を頂く。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	個々の利用者のリスクについては、朝・夕の申し送り時等を通して日常的に把握・共有して予防に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応のマニュアルはある。利用者、家族の思いに寄り添うケア、常に相談し合う関係性を心がけている。スタッフは常に、リーダー・管理者と情報を共有しており早めの対応を行っている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	利用者・家族からケアや生活について、苦情が寄せられた場合は、速やかに対応している。必要時は市町村にも報告するが、今までそのような事例はない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情が寄せられた場合は、速やかに対応し、前向きな話し合いと関係づくりを行いたい。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	利用者と挨拶を始め、会話を大切にしている。利用者が気軽にスタッフに思いを伝えられるように努力している。利用者が伝えてくれた意見や要望、苦情に速やかに対応している。運営推進会議にも、本人の了解を得て毎回数名出席していただいている。			◎	利用者からの意見や要望は、日常生活の中で常に汲み取れるように会話を大切にしている。家族が意見や要望を伝えられる機会もあり、速やかに対応している。管理者は職員と一緒に利用者の支援を行っており、職員は意見や要望を伝えやすい環境にある。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族とのコミュニケーションを大切にしている、面会・お便り・電話等機会あるごとに本人の情報を伝え、家族の思いを聞くようにしている。運営推進会議の曜日設定を検討することで、家族の参加が増えている。	○		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関に紙面にて表示している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は月に1回の管理者会にて現場の様子を把握し、必要時は現場にてスタッフの意見を聞く。年に1～2回、全スタッフと面談を行っている。管理者と相談しながら必要時は随時面談を行っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	朝・夕の申し送り時にそれぞれが意見を伝えることができる。常に理念・目標を意識し利用者本位のケアを目指している。管理者は常に現場におり、日常的にスタッフと相談ができる。			◎	

愛媛県グループホームユニットまつやま

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	自己評価の項目を全員で確認しながら、サービスの向上に努めている。				サービス評価の結果や今後の取り組み、目標を地域包括支援センターや運営推進会議のメンバー、家族などに報告しており、事業所のステップアップにつなげているが、取り組みのモニターをしてもらうまでには至っていないので、今後に期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を通して、必要なことの再確認ができ、課題が明確になり意識統一や学習の機会となっている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	事業所全体で取り組んでいる。近所の保育園との交流が実現できた。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	毎月のお便りや地域運営推進会議にて、評価結果や目標達成計画を紙面にて報告している。地域運営推進会議には地域包括支援センターのスタッフも参加していただいている。	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議にて報告し、その内容を玄関ホールに掲示している。朝の申し送り時や紙面にてスタッフ間でも情報を共有している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	対応マニュアルを作成している。具体的な対応については、今後も繰り返し訓練をし、地域や関係機関との連絡体制も強化していく必要がある。				様々な想定で避難訓練を行い、消防署のアドバイスを受けている。近隣の施設と災害時の協力体制を構築しているが、さらに日頃からの連携を深めていきたいと考えている。地域の避難訓練に参加して協力体制等について話し合う場を作り、緊急災害時等の連携強化に努めるなど、万全を期することに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年2回避難訓練を行っている。今後も色々な想定の実地訓練を計画したい。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	保安協会、消防署の定期点検を受けている。非常食等の点検は係を決めて行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議等とおして、地域住民や消防署との連携を大切にして訓練や相談をしている。近くにある福祉施設へは緊急時の避難場所として、協力支援体制を確保している。更に日頃から連携を図り、話し合いの機会を持つのが課題である。	×	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の防災訓練には今後積極的に参加したい。運営推進会議に地域の防災士に参加していただき相談にのっていただいている。緊急時の災害避難場所の協力支援をお願いしている福祉施設との連携を強めていきたい。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	認知症ケアについての内部研修は行っている。今後、運営推進会議等で研修内容や認知症ケアの取り組みについて報告し、地域の方からご意見を頂いたり、相談を受けたりできるようなグループホームを目指して努力したい。				地域の高齢者や家族から相談があれば対応できるようになっているため、地域に向けて認知症などの相談ができることを周知していきたいと考えており、今後の取り組みに期待したい。地域関係機関等と連携し、地域イベント等を開催するなどの取り組みが望まれる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	見学や相談は随時受け付けている。地域の方の相談はなかったが、今後、地域運営推進会議等をおして認知症についての相談ができる事をお知らせしていきたい。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	地域の方たちの為に事業所を解放するようにはなっていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	地域の中学生やボランティアの実習や研修の受け入れがある。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	地域活動には至ってない。			×	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成30年10月15日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 11名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	1名	

※事業所記入

事業所番号	愛媛県知事第3870104555号
事業所名	グループホーム ユニットまつやま
(ユニット名)	B棟
記入者(管理者)	
氏 名	高橋 知子
自己評価作成日	平成30年 9月 21日

【事業所理念】 ユニット・ワンの理念『悔いの残らないお世話をさせていただきます』を實踐できるように、「共に育つ」「ゆっくり・一緒に・楽しく」「和かいことば・温かい雰囲気・安心できる居場所」を目標にしている。スタッフ一人ひとりが自分を育てる意識を持ち、より良いケアを目指してチームで協力、努力していくことを目指している。	【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 ・近くにある未来保育園の行事に参加する予定を立てたが、保育園でのインフルエンザ流行の為予定を中止となる。保育園の園児へのプレゼントを利用者と作成していたので保育園へ届ける。保育園からも、園児がプレゼントを持って訪問してくれたが、インフルエンザ流行の時期でもあり、玄関での対応となる。季節を選びまた交流を企画したい。地域との交流を広げる目標として、運営推進会議への出席者が少ないので、まずご家族の参加をお願いしたところ、直ぐに参加が増えている。地域に暮らすご家族の方に運営推進会議を通してグループホームの取り組みを知っていただき、地域への働きかけも広げていきたい。ご家族のボランティア参加もあり、今後も地域の方のボランティアの受け入れを広げていきたい。近くにある中央高校の生徒会の方が運動会の案内に来てくださった。今後、中央高校との交流も考えていきたい。災害時の避難協力をお願いしている近くの和光苑も文化祭のお知らせを頂いている。少しずつ交流を広げ利用者が地域に行ける機会を提供したい。	【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は開設14年目を迎え、田畑が広がる静かな環境の中、周辺には住宅もあり、事業所の花壇を見ながら散歩をする地域住民や子供たちとのふれあいも利用者の楽しみのひとつとなっている。職員がピアノ演奏会や歌謡ショーを行ったり、職員が休日に撮った季節の写真を飾るなど、利用者に日常を楽しんでもらいたいとの思いが伝わってくる会社の理念のほかに、今年は全職員参加で、会社全体のケア目標を作成してそれを事業所の目標とし、温かい雰囲気の中で利用者が穏やかに楽しく安心して過ごせるように取り組んでいる。職員が明るい気持ちで向上心を持って働けるように、内部研修の充実や職員一人ひとりの意見を表すことのできる機会を作るなど、職場環境作りにも力を入れている事業所である。
--	--	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内 容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅰ.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人の言葉を聞き取ることを大切にしている。また、表情から本人の思いをくみ取る努力をしている。面会時等は本人の様子や思いを伝え家族の思いも聞き取りながらご意向の把握に努めている。	○		◎	普段から利用者との会話を大切にして、暮らし方の希望や意向を確認している。言葉で表しにくい利用者には、表情やしぐさから思いをくんで望んでいることを把握するように心がけている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	入居時に把握していた情報や、ご家族からお元気な頃の本人の思いについて情報を把握するよう努めている。チームで話し合い、「本人はどうか」という視点を大切にしている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	ご家族等の面会時には日々の様子や本人の思いをお伝えしている。お元気な頃の様子を伺ったりして本人の思いと一緒に確認している。必要時は電話にて伝えている。家族がおらず身元引受人がいる利用者1名いるが、細かい事まで話し合っている。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人のアセスメントには本人の今までの暮らし方も記録している。日々の個人記録には、本人の声を記録するようにしている。また、共有ノートには、本人の変化した情報等を記録している。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の言葉を丁寧に聞き取ったり、表情やしぐさの観察を大切にしている。スタッフ同士で情報を共有し色々な見方感じ方を大切にしている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居時には時間を取って本人の様子を聞いている。ケアをするうえで本人の生活歴やなじみの暮らし方、こだわり等が重要だと認識し、入居後も面会等の時間を利用して、本人の情報を把握している。			◎	利用者や家族、入居前に利用していた事業所などから生活歴や馴染みの暮らし方などを聞いて情報を把握している。日々の暮らしの中で知り得た情報は、記録や口頭で伝えて職員全員が把握できるように努めている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々の生活の中で変化していく本人の状態や有する力、それに対するケアの方法を、スタッフ全員で共有できるよう、共有ノートに記録したり、朝のミーティング、申し送り等で共有し把握している。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	本人の言葉や表情、活動状態をよく観察し、状態を把握している。また、それをスタッフ全員で把握できるよう、朝夕の申し送り時に丁寧に伝え共有し、必要時は共有ノートに記録している。また、ケアカンファレンス時に話し合うようにしている。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	適切な言葉で思いを表せないご利用者に対しても、日々そばで関わり表情や言動を観察し、いろいろなスタッフの観察や意見を共有しながら、不安の要因が把握できるように努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	24時間シートに日々の様子を記録している。いつもとリズムや様子が違う時は、共有ノートや申し送りにて情報を共有し、適切なケアにつながるように努めている。一人で過ごす事が多い方は、居室を訪ねて状態を把握している。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の言葉をよく聞き、状態を観察しながら、本人にとって必要なことは何かを、主治医や家族も含めて相談しながらケアに生かせるよう努めている。			◎	知り得た情報に基づいて利用者が何を必要としているか検討して、アセスメントシートを活用しながら職員全員が把握できるように情報を整理して記入している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ケアプラン作成時にはカンファレンスにて色々な視点から本人のより良い暮らしについて考えている。日頃から家族とのコミュニケーションも大切にして思いを聞いている。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ケアプランには、「本人の望む暮らし」「本人の困っていること」と記載し、課題を明らかにしている。				

愛媛県グループホームユニットまつやま

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人が より良く暮らすための 介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	日ごろより、本人の思いや意向を聞き取り感じ取れるように意識している。				各ユニットの計画作成担当者が、利用者や家族、主治医などの意見や希望を反映した介護計画を作成している。利用者の残存機能を活かしながら、維持できるような内容が盛り込まれた内容となっている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の様子の観察を重視しスタッフ間で共有している。家族とのコミュニケーションを深め計画書について話し合っている。主治医との連携も大切にしている。	○		◎	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	馴染みのスタッフとの関わり、安心できる環境作りを大切にしている。家族との時間を大切にしている。				
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族とのコミュニケーションは重視し、常に一緒に支える関係性を築いている。地域の人達との協力体制はまだ難しい状態である。				
5	介護計画に基づいた 日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケアカンファレンス時には、なるべく多くのスタッフの意見を聞くようにしている。個人の日々の記録にケアプランが記載されており、毎日チェックしながら記録をしている。			◎	毎日の経過記録に介護計画の内容が表記されており、介護計画に沿ったケアが実践できたか確認して結果を共有できるようになっている。日常の様子を丁寧に記入しているが、さらに職員の気づきや工夫などの記録にも取り組んでいきたいと感じている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	個人の日々の記録にあるケアプランを実践できたらチェックしている。担当者が月に1度複数のスタッフと話し合ってモニタリングを行っている。カンファレンスの時には実施状況を話あって確認している。			○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	個人の記録には、本人の言葉をそのまま書くことを大切にしている。重度化した方の暮らしの様子の観察が不十分で同じような記載になってしまう。			○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	ひとり一人についてのスタッフの気づきや工夫、を朝夕の申し送り時に話し合い、まずやってみようと、取り入れている。記録は不十分である。			△	
6	現状に即した 介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	期間に応じてカンファレンスを開き見直しをおこなっている。退院時、看取り等、必要に応じて見直しを行っている。			◎	毎月ユニット毎に職員がそれぞれの利用者について話し合い、現状を確認しながらモニタリングを行っている。介護計画は6か月毎に見直しを行っているが、利用者の状態に変化があった場合などはその都度検討し、現状に合った介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	担当者は、月に1度、複数のスタッフと話し合いモニタリングを行い、計画についての評価を行っている。			◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状況が変化したり、入院等があった場合は、家族、主治医等に相談をし、随時見直しを行っている。看取り計画は、家族・主治医・担当ナース・ケアマネ・スタッフ等とカンファレンスを行い作成をした。			◎	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	朝夕の申し送り時には、必要なことをその都度話し合い、状況や対応に変化がある場合は、共有ノートにてスタッフ全員と共有する。			◎	朝夕の申し送りのほかにも必要時には話し合いを持って検討し、情報を共有している。申し送りや会議の内容は、職員全員が把握できるように確認後、サインをして確認漏れがないように徹底している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	朝の申し送り時は、自由に発言できるような雰囲気作りに努めている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	カンファレンスは、月に2回開催し、多くのスタッフが参加できるようにしている。参加できないスタッフも、メモにて意見を伝えている。				
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	カンファレンス記録は、全体の共有ノートに貼付し、スタッフ全員で共有している。			◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	朝夕の申し送りはご利用者ひとり一人について丁寧に申し送りをを行い情報を共有している。事務的な共有ノートと、ご利用者についての共有ノートがあり、整理して共有している。			◎	申し送り事項については、内容によってノートを分けることで職員全員が把握しやすいように工夫している。管理者会議の議事録も簡潔にまとめて職員が確認できるようにしている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	ご利用者についての共有ノートと事務的な共有ノートがあり、重要な情報は記載してスタッフ全員で共有している。	○			

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にした支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	ご利用者の意思がはっきりしている方については、ご意向を確認して、できるだけ意向に沿えるようにしている。ご意向を示すことが困難な方については不十分である。				利用者一人ひとりのその日の気分や意向に沿って、自己決定してもらいながらそれぞれのペースで過ごせるように支援を行っている。職員は、利用者が穏やかに笑顔で過ごせるような雰囲気や場を作るように心がけている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	できるだけ選択できる場面を作っている。「ゆっくり・一緒に・楽しく」を目標に本人の意思を尊重している。集団生活の中で、一人で自由に過ごす時間も大切に見守っている。			○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自室でゆっくり過ごす方、テラスを散歩する方、玄関のお気に入りの場所で過ごす方、テレビを見て過ごす方、馴染みの人とお話を楽しむ方、本や新聞を読む方等それぞれが思い思いに過ごせるように支援している。				
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にした支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	基本のスケジュールはあるが、個別ケアを重視し、ひとり一人のペースに合わせて生活できるように支援するのを目標とするが、ご利用者より職員の決まりや都合を優先させてしまう面がやや見られるので今後の課題である。				
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	△	「ゆっくり・一緒に・楽しく」を目標に「和らかな言葉・温かい雰囲気・安心できる居場所」に努めている。			○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	△	言葉が少なくても、瞳の状態が穏やかか、肌の状態や表情、全身状態を観察し、本人の思いを感じるように配慮しながら声掛けケアを目指している。しかし、スタッフのレベルに違いがあり統一した支援に欠ける面がある。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にした言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	「尊厳と自立支援」について、学ぶ機会を多く持ち、人として大切にされる。できないことはさりげなく支援する。ということを常に意識するよう努めている。	○	◎	◎	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを大切にして、常に尊厳の気持ちを持って支援を行っている。職員の対応の違いはあるが、気になることがあれば話し合って前向きに改善していきたいと取り組んでいる。居室は利用者のプライベートな場所であることを認識しており、入室時はノックや声かけをしてから入るよう配慮している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	支援が必要なご利用者は、それぞれ長い人生を一生懸命生きてこられた方だという意識をを忘れないようにしている。しかし、スタッフのレベルの違いがある。今後も学ぶ機会を持ちレベル向上を目指したい。			○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら、安心できる関係性の構築に努めている。				
		d	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	居室に居る時は、ノックをしたり声をかけて入室している。本人が外にいる場合は、声をかけ入室する了解を得ている。			○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	入居時には個人情報保護について書面について確認している。職員は守秘義務について理解している。				
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	介護は共同作業だと認識している。信頼関係を築きながら行き感謝の気持ちを伝えている。また、教えてもらったり、癒されたりすることも多く、スタッフの喜びとなっている。				利用者同士の関係や性格を把握して、トラブルを未然に防ぐことができるように配慮している。職員が明るく和やかな雰囲気を作っており、利用者同士も相手を気遣う声かけをしたり、関わりを持って過ごしている。トラブルになりそうな時は、利用者それぞれの気持ちを理解し配慮した支援に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	気の合うご利用者が良い関係を築くことができるようさりげなく支援することを重要と考えている。仲間がいる喜びを感じることができるよう支援している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	個々のご利用者の立場や性格等を把握し支援している。はっきり発言するご利用者、上手く意志を伝えられないご利用者等が生活するが、場を盛り上げてくれる世話役の方の力で大きなトラブルが見られていない。ご利用者同士の関わり合い、支え合いができています。			○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	それぞれの思いを大切に、さりげなく支援し、必要であれば個別に時間を持って支援する。				

愛媛県グループホームユニットまつやま

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係 継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	△	キーパーソンとの信頼関係を築きながら、本人の関係者についてはできるだけ多くの情報を把握するように努めている。 家族がいないご利用者と家族がいても疎遠のご利用者がいる。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	キーパーソンとの信頼関係を築きながら、本人の関係者についてはできるだけ多くの情報を把握するように努めているが、地域との関係や馴染みの場所などは全員は把握できていない。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	家族の支援を受けれる方は、家族の協力でできているが、スタッフの対応は難しい。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	キーパーソンと連絡を取りながら、いつでも気軽に訪れることができるような雰囲気作りを心がけている。 毎週の面会、定期的に外出の協力のご家族がいる。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	×	多くの利用者が日常的に戸外に出て過ごすことは難しい。が、天気の良い日は希望する方にはできるだけ庭先での日光浴や散歩を心がけている。季節の良い時期には、ドライブに出掛けて季節を感じられるよう支援している。 重度の方の外出は実現できなかった。	△	○	△	利用者一人ひとりのその日の希望に沿うことは難しいが、事業所周辺の散歩やドライブなどは積極的に行っている。重度の利用者も中庭に出て外気浴をしたり、外の空気や季節を感じられるように支援を行っている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	屋内でのボランティアの支援はあるが、外出支援はなかった。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	天気の良い日は庭での日光浴は試みている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	×	普段は行けない場所には、出かけられていない。	/	/	/	
14	心身機能の維持、 向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	外部研修の参加や内部研修を行い、日々学んでいる。朝の申し送り時でも気になることは相談したり、良いことも上手いかなかったケアも共有しスタッフ全員で取り組む意識を持っている。	/	/	/	毎日の体操や塗り絵など、日常生活の中で利用者それぞれのペースで、できることを行っている。両ユニットと中庭を散歩することが日課の利用者もあり、歩行状態と下肢筋力の低下防止につながっている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	座位の状態・食べる状態の観察を大切にしている。目の輝きや皮膚状態等全身の状態の観察に努め、状態の変化を主治医・家族に相談し、できるだけ状態が維持できるようにケアの方法を工夫している。歯科医師による「口腔ケア・嚥下」勉強会、業者による「おむつのあて方」勉強会を開催し学んだ。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	「ゆっくり・一緒に・楽しく」を目標に、それぞれに合った「できる環境作り」をさりげなく行うように配慮している。(洗濯物たたみもできそうな種類で分ける等)	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、 気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	個々の生活歴やこだわりを重視している。本人の楽しみや活躍できる役割の把握に努めている。 (食事のワゴン運び・洗濯物たたみ・掃除・テーブル拭き・ウサギの世話等)	/	/	/	動物の世話や洗濯物たたみ、裁縫など利用者一人ひとりの楽しみや得意なことを把握し、日常の中でそれを活かせるように支援を行っている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	それぞれの楽しみや得意なことを把握し、さりげなく生活の中で力を発揮できるように支援し、感謝の気持ちを伝える機会としている。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地方祭、ボランティアを受ける楽しみはあるが、地域の行事に出かけていくことがない。	/	/	/	

愛媛県グループホームユニットまつやま

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみや おしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	△	本人の意向を大切にしている。ちぐはぐな服を選んでいたりする時は、さりげなく支援したり整えている。				食事の食べこぼしがある利用者にすぐに介助用エプロンで対応するのではなく、さりげなくタオルを使用するなどプライドを大切にしている。重度の状態であっても、家族と相談しながら服装など本人らしさが保てるように支援を行っている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	△	本人・家族と相談して整えている。髪のカットの時は、本人に希望を聞いている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人らしさが出るように配慮している。自己決定が難しい利用者にも、必ずコミュニケーションを取り、その表情から意向をくみ取るようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせたその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出の時は普段と違う装いになるように選び楽しみとしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしておしゃれなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	着衣等が整えられなくなったり、こだわりがなくなった方も、さりげなく整え本来その方が望んでいた状態を維持できるようにしている。	○	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	家族と相談して対応している。家族と一緒に理容院に行く方もいるが、訪問理容を利用している方が多い。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	できるだけ本人が好むだろうものを家族と相談して整えている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	食べることの重要性を理解している。食べることが楽しみになるように声掛け、雰囲気作りに配慮している。				献立は食材宅配業者の栄養士が作成し、特定アレルギーについても献立表に表示されている。食材は業者が配達し、利用者と一緒に買い物に行くことはないが、机拭きや食後の下膳などができる利用者には、なるべく取り組んでもらえるような支援にも努めて欲しい。調査日は月に1度の行事食の献立の日で、芋炊きの具材を利用者と話したり、季節の献立を楽しんでいる食事風景が見られた。箸や茶碗は利用者が使っていたものや使いやすいものを使用している。職員と一緒に食事はしていないが、利用者のことは常に見守り会話をしながら和やかな雰囲気ですべての食事ができるよう努めている。食材は業者が配達し、1つのユニットで利用者全員分の食事をまとめて作っているため、重度の利用者も調理の匂いや音を感じられるようになっている。利用者の食事のことについては、主治医や家族等とも相談しスタッフ間で情報を共有しながら、バランスの取れた栄養が摂れるよう支援している。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともに行っている。	△	机拭きや、食後の下膳はできる方は自分で行っている。お楽しみ献立のメニューはご利用者の意見を取り入れている。買い物や調理はできていない。			△	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	×	現状では行っていない。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	毎日の食事の支援により把握している。台所に、個々の食事形態・好き嫌い・アレルギーのチェックリストがある。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	業者の献立を利用している。行事の食事はご利用者の意見を取り入れている。準備時より昔の話が盛り上がり楽しみとなっている。その日の献立の内容をホールに張り出しているので、楽しみに見る利用者がいる。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いんどりや器の工夫等)	○	利用者ひとり一人の状態に合わせた調理法としている。食器等はできるだけ陶器のものを使用し、料理に合わせて小鉢等を使用し、見た目も大切にしつつ食べやすいように盛り付けている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	それぞれの状態に合わせて食べやすいように食器や箸スプーンを選んでいる。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	△	食事介助が必要な方がいるので一緒に食べるのは難しい。介助をしながらも、テーブル全体は見守り、ひとり一人の状態の把握に努めている。			△	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	主治医や家族とも相談して本人の状態に合わせた食事の形状とする。献立の内容を伝えながら食事介助を行っている。テレビを消してヒーリング音楽をかけ落ち着いた雰囲気の中で食べることができるよう配慮している。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	個々の状態に合わせた食事量としている。水分摂取量も個々の状態に合わせて量を把握し確保できるよう支援している。 食事、水分 摂取量の記録様式を見直したので分かりやすくなった。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	スタッフ間での情報の共有に努め、主治医や家族とこまめに相談しながら本人にとって良い状態が保てるように支援している。水分摂取量が少ない利用者には、時間をおいてこまめに勧めることで、必要量を確保できている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士がたてた業者のメニューを利用している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理担当のスタッフが責任を持って対応している。検食を3日間保存している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの研修を行っている。定期的に歯科医が訪問して指導を受けている。定期的に配布される口腔ケアについてのポスターをホールに貼付し活用している。				毎食後の口腔ケア時に利用者の口腔内の状況を確認し、利用者の口腔内の清潔が保てるよう支援に努めている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況（虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等）について把握している。	○	口腔ケアの際に確認している。必要時は家族・歯科医に相談して対応、おいしく安全に口から食べることができる支援を心がけている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	定期的に歯科医が訪問しており指導を受けている。自立で口腔ケアを行っている方は、正しい口腔ケアが行われているか十分に把握できていない。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	△	口腔ケア時は、ご利用者の状態に合わせ、介助を行っている。自分で行う方は、適切な手入れができていないか十分に把握できていない。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	○	口腔ケア時は、ご利用者の状態に合わせ見守り介助を行っている。できるところは自分で行えるように入れ歯洗浄は全利用者でできている。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	○	口から美味しく食べる重要性を理解している。異常がある時は、家族、歯科医に相談して早急に対応するように支援している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	排泄の支援が、本人の尊厳を守る支援であることを理解している。				安易にオムツを使用するのではなく、利用者の状況に応じて見直しをしたり、工夫しながらなるべくトイレで気持ちよく排泄できるように、利用者一人ひとりに合わせた排泄支援を行っている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘が生活に重大な影響を及ぼすことを理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。（間隔、量、排尿・排便の兆候等）	○	排泄の状態把握の重要性を理解し、日々の排泄支援において把握し、スタッフ間で共有している。排便チェック表を活用している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ（紙パンツ・パッドを含む）使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	本人の状態を観察しながら、昼間はできるだけトイレの使用を試みている。紙パンツ等の使用の変更についてはスタッフ皆で相談している。オムツいじりがある利用者に対して、業者に相談。肌触りの良いパットに変更すると改善された。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	本人の状態観察と、排便チェック表を活用しながら、主治医・家族と相談し、状態の改善が行われるように工夫している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々のリズムを把握し、早めの声掛け支援を行っている。				
		g	おむつ（紙パンツ・パッドを含む）を使用する場合は、職員が一方向的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人や家族と相談しながら選択している。業者のサンプルパットを試用してもらい本人が希望する物に変更したご利用者あり。 日中は活動し易いように、夜間は良眠し易いように選択している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ（紙パンツ・パッドを含む）を適時使い分けている。	○	個別ケアが重要だと考えているので、個々の状態に合わせて使用している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。（薬に頼らない取り組み）	○	水分摂取量の把握、日中は活動し易い工夫、個々の状態に合わせて冷たい牛乳や少し温めた牛乳を出している。主治医との連携も密に取り必要時は薬も使用している。毎日の体操や屋内散歩が習慣になっている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。（時間帯、長さ、回数、温度等）。	○	週に2回メンバーを決めて入浴しているが、体調不良や本人の希望がある時は、日を調整する。季節に応じて湯の温度を細かく調整したり、入浴剤を変更したりしている。温度や長さは基本本人の好みに合わせているが、配慮が必要な場合は支援している。	◎		○	週に2回の入浴日となっているが、体調や希望に応じて曜日をずらすなど柔軟に対応している。入浴補助用具を使いながら、安全に気持ちよく入浴できるよう支援に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	お風呂が一番楽しみという方もたくさんおり、入浴の重要性を理解しており、楽しみの時間になるように支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	常に安全に注意して見守りは行いながらも、本人の力が活かせるように支援している。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	個々の気持ちの理解に努め、人前で誘わない、お願いをする、さりげなく誘う等様々な工夫をしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	朝のバイタルチェックを基に、夜間の状態、入浴前の状態等を把握し、気になる時は看護師等に相談している。入浴後は水分補給や休息・見守りの配慮をしている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	夜勤者は、2時間毎の巡視を行っている。気になる方は訪室回数を増やし睡眠状態を確認し記録している。朝・夕の申し送り時に生活のリズムについて情報を共有している。				夜間の不眠が見られてもすぐに眠剤など薬剤を使用せず、1日の生活リズムや環境を整えて夜間の安眠につながるよう支援に努めている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	朝夕の申し送り時には、生活の様子、排泄の様子、スタッフの関わり方、他ご利用者との関わり、認知症の症状、その他様々な角度から情報を共有し、夜間良眠につなげる工夫に取り組んでいる。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	2名のご利用者は眠前薬を服用している。主治医も生活レベルの低下予防、転倒予防の為に必要最小限の使用との指示がある。まず、環境整備(スタッフの対応も含む)を工夫することが重要だと考えている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	個々の個室の他に、ソファや玄関のスペースに椅子を置きそれぞれが好きな時に利用している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	本人や家族の希望がある場合は、希望する時に電話ができる支援をしているが、利用する方はほとんどいない。年賀状や季節の便りをいただいた時は、個々の状態に合わせて本人が理解できるように支援して家族との繋がりを大切にしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	七夕の短冊や、書初めの言葉等が書けるように支援している。その内容を家族に伝え、本人の家族に対する思いを伝えている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	△	日頃より家族とのコミュニケーションは大切にしている。必要な時は、いつでも電話ができるように支援できるが、利用する方は少ない。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	届いた手紙等は、本人と家族との大切な繋がりであり、大切に扱っている。家族以外からの手紙は、キーパーソンに伝え繋がりを保つことができるように支援している。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	本人が電話をかけることについては、必要な時は家族とよく相談して理解を得たいと思う。7名の方は定期的に面会に来られている。1名の方は、家族の事情もあり困難である。今後、コミュニケーションを深めたい。1名の方の身元引受人は協力あり。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	本人がお金を大切に思う気持ちは理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	現在は、家族と相談のうえ、家族が管理している。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	×	利用者が買い物に行く時はスタッフも一緒なので、困らない支援を行っている。今後、よく行くスーパー等には利用者が自分の力を発揮できるように、買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っていきたい。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	×	現在は、家族と相談のうえ、家族が管理している。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	現状では行えていない。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	基本、家族に管理をしていただいている。家族が管理できない場合は、家族に書面上で同意の上、会社が預かり管理している方もいる。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	常に家族と相談しながら、本人にとって良い方法を工夫して対応している。必要時は定期受診の対応、家族の相談ごと等にも対応する。	◎		○	毎週自宅に帰りたい利用者の希望を叶えるなど、利用者や家族の意向に沿った柔軟なサービスにも取り組んでいる。

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者が家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物周りに外壁はなく、オープンな雰囲気である。庭には木や草花を植えている。玄関はガラス戸で明るい雰囲気である。	◎	◎	○	玄関はガラス戸になっており、外の様子を見ることができる。玄関ホールのソファに座って花壇を見たり、事業所の前の道を散歩する地域の方や子供たちとの交流を楽しみにしている利用者もあり、開放的な雰囲気になっている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。（天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそごうな設えになっていないか等。）	○	平屋で中庭を囲んだコの字型の建物である。中庭にある大きな木が居間からよく見える。天窓があり明るい。広い居間には季節を感じられるような作り物を施している。玄関には椅子を用意しているので、外の景色を眺めたり日向ぼっこを楽しんでいる。	○	◎	○	リビングにはソファや畳コーナーがあり、お気に入りの場所でくつろげるようになっている。テレビを日中つけっぱなしにしないよう、静かに落ち着いた時間も作るように配慮している。リビングから中庭の木々を眺められ、季節を感じることができる。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	ホームの前は田畑で、車の通りも少なく静か。平屋で天窓があり明るい。朝に夕に場所を分けて掃除をしている。食事の時はテレビを消しヒーリング音楽をかけている。			○	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	玄関やテラスからの眺めが良い。玄関前は田畑が広がり、季節を感じることができる。中庭の木や玄関の草花からも季節を感じることができる。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	人との関わりを大切に思っている。気の合うご利用者同士で過ごせる時間を大切に思っている。気の合うご利用者との時間を楽しめるようにさり気なく支援している。				
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	トイレや浴室は居間からは直接見えないようになっている。プライバシーには配慮している。				
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	入居時に家族と相談しながら、馴染みのものを持ってきていただいている。筆筒や飾り物や写真等、それを話題にして昔話を楽しむこともある。	◎		◎	ベッドとクローゼット、木製のたんすが備え付けてあり、馴染みのものや思い出の写真が置かれ居心地の良い空間になるように配慮している。各居室に洗面台もあり、自室で整容したり身だしなみを整えることができる。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレには分かり易い表示をしている。自分の居室も入り口に名札、本人の写真を置いている。必要な方はそれ以外にも目印になるようなものを貼り、自分で好きな時に部屋に帰れるように工夫している。			◎	居室入口には名札や利用者それぞれの写真を貼るなど、自室が分かりやすいように工夫している。裁縫の得意な利用者には衣類の修繕をしてもらったり、それぞれのできることや力が活かせるような支援を行っている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	◎	筆筒や机の上に自分で服を出したままにしているのを見て、誰かが入って触ったと不安になる方は、さりげなく整理整頓をして不安を解消している。部屋に入る時は、必ず本人に声掛けをしている。				
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	新聞やチラシ、本、裁縫道具、趣味の道具(塗り絵、パズル等)はご利用者がいつでも手に取れる場所に置いてないが、それぞれの興味ある活動ができるように、スタッフがさりげなく傍に置いたり声掛けて活動ができる様に支援している。				
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	△	玄関は、常に見守りができないので普段はロックをスタッフがリモコンで操作している。スタッフが常に見守りができる時は解放していることもある。居室は自由に出入りしている。	×	×	×	安全面を重視して玄関はオートロックになっており、家族にも説明している。外出希望のある利用者には職員が付き添って散歩をするなど対応している。今後は玄関を開放し、利用者が自由に出入りすることができるような取り組み等も検討して欲しい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	△	利用者の安全優先の為と家族には説明しご理解を頂いている。玄関のカギをかけないということについて、話し合う機会を今まで持っていなかった。				
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	△	職員が一緒に過ごすことができる時は、玄関のドアをオープンにしている。地域の行事の時もオープンにして一緒に楽しんでいる。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や 病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	病歴については個々のアセスメント表にて把握している。訪問診療や病院受診時の情報も共有ノートにて把握し、個々の状態の変化を把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	朝・夕の申し送り時に、個々の変化について丁寧に情報を共有し、必要時は個々の日々の記録、共有ノートに記載している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	グループホーム内の看護師との情報の共有を大切にしている。気になることがあれば、早め早めに相談して指示をいただいている。				
31	かかりつけ医等の 受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	主治医は本人・家族の希望により決めている。本人の状態の変化によっては、本人がより、安心してグループホームで過ごせるように家族と相談して主治医へ変更することもある。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	医療連携を重視している。本人・家族と医療・グループホームが常に連携を取り適切な医療が受けられるように情報の共有に努めている。訪問看護時は丁寧に情報を提供し、受診時は手紙等にて情報を提供している。必要時は受診に同行することもある。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	基本、受診は本人・家族・スタッフ同行が望ましいと考えているが、家族のみ、スタッフのみの同行となる場合も、受診前に情報を共有し、受診後も速やかに情報を共有するようにしている。				
32	入退院時の医療機関との 連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院前の状態のアセスメント情報を渡している。また、入院に至る経緯について、最新のアセスメントについても伝えて本人の混乱が少しでも軽減するように努めている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	入院時より、病院の地域医療連携室と連絡を取り、情報の共有に努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	入院中も、病院を訪問して本人の状態を把握し、地域医療連携室と情報を共有し、退院に向けての相談をしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	スタッフはグループホームの看護師との情報の共有を大切にしている。必要時は看護師より主治医へ相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	×	9月より、24時間の医療連携体制加算は取っていないが、再度24時間医療連携体制加算が取れる体制を目指している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	朝・夕の申し送り時に個々の利用者の気になることを共有して申し送り看護師に相談したり、必要時は早めに医療機関の看護師に相談して異常の早期発見につなげている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	△	全員の利用者の全ての薬の把握はできていない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	毎食後の薬を個人の名前を書いた場所に入れて管理している。全ての薬に名前を記入している。個々の状態に合わせて介助や見守りをおこなっている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	本人の状態の観察は全スタッフで行い情報を共有している。必要な時は看護師や主治医に相談している。特に薬の処方に変更があった場合は、細やかな観察で本人の心身の安定につながっていない場合は直ぐに主治医に相談する。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	処方変更の場合は、看護師・主治医へ服薬後の状態の変化を伝えている。また、家族にも状態の変化を伝えている。又、薬局との情報共有にも努めている。				

愛媛県グループホームユニットまつやま

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時には重度化した場合の看取りの指針について説明している。家族とのコミュニケーションを大切にしている。日頃より本人の状態を伝え、元気な頃より将来について本人の希望・家族の希望をお聞きする機会を大切にし、意向を確認している。				看取り支援を行っており、終末期の意向を確認し情報を共有するため事前指示書を家族に記入してもらっている。医師や看護師、職員が利用者や家族の方針を共有し不安や思いに寄り添いながら、穏やかな終末期を迎えられるよう支援に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	常に、本人・家族と医療機関そしてグループホームが情報を共有し、相談を重ねることが本人・家族の望む終末期につながると考えている。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	グループホームでできること、できないことについての情報は家族・医療機関との相談の時々説明している。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	看取りをおこなう場合は、看取りの指針を基に丁寧に説明し理解を得ている。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	終末期は特別なことではなく、日々の生活の先にあるものと捉え、今後の変化に備え、家族・医療機関への情報提供を密におこない、コミュニケーションを重ね、連携を強化し、できるだけ本人や家族が安心できる生活を目指してスタッフ全員で日々のケアについて相談しながらチームで支援している。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。（心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等）	◎	機会あるごとに家族とコミュニケーションを大切にしている。電話・手紙・面談等で常に情報を共有し信頼関係を築いている。本人をととしての、家族のプライベートの事情等も相談を受けている。。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症（ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等）や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	外部研修に参加している。内部でも看護師による感染予防の研修にて学んでいる。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	研修で学んだ手順を紙面にて皆が確認できるところに掲示している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	行政からのお知らせはその都度確認している。主治医からも常に情報提供があり、早めに対応している。				
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	◎	新聞、テレビ、行政、主治医、感染委員会からの情報等により早めの対応を心がけている。				
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	出勤時は手洗いを行っている。体調管理表があり、その日の体調を自己申告し、マスクの着用等早めの管理をして感染予防に努めている。日頃から、職員・利用者共に手洗いを励行している。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅱ.家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	家族は、本人の大切な方であり、本人を支えるチームの一員であると捉えている。				家族に事業所の行事を案内し、参加できる機会を作っている。面会に来る家族も多く、家族がボランティアで演奏会を行ったり、事業所と関わりを持っている。来訪する機会が少ない家族にも日常の様子を伝えたり、報告を行っている。毎月の家族への便りにより、職員の異動や事業所の運営上のこと等を報告している。面会時には家族が希望を言いやすいよう職員から声かけを行い、毎月作成送付している事業所便りにも、家族が相談しやすいような一言が添えられているなど配慮している。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。（来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	○	家族は本人にとって大切な存在であり、本人を支援していく上での重要なチームの一員と考えている。面会に来やすい雰囲気作りを心がけており、本人の様子を伝えコミュニケーションを深めている。居室や面会室で落ち着いて過ごしていただいている。宿泊の実績はない。				
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。（食事づくり、散歩、外出、行事等）	○	雨だれコンサート、ソーメン流し、運動会、秋祭り、地域運営推進会議等の行事には声をかけ参加してくださる家族も多い。ドライブや外出も家族の協力があるが、限られている。	○		◎	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。（「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等）	◎	毎月、全員の家族に日常の様子の写真を載せたお便りを発送している。各担当者が定期的に利用者の様子を手書きの手紙にてお知らせしている。	○		◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	ケアプラン更新時や面会時に状態の報告をおこない、気になることがある時は、その都度個別に相談報告をしている。遠方の方や来訪の機会の少ない家族には、電話やお手紙にて相談報告を行っている。				
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。（認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等）	○	本人のこれまでの生活の様子をお聞きする中で、家族との関係の理解にも努めている。本人が家族のことを忘れてきている。本人の状態が変化している等、認知症の進行に伴う家族の戸惑いについて、面会時や電話等で本人の状態を伝えつつ、家族の気持ちに寄り添い、本人との良い関係が築けるように支援している。				
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。（行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等）	◎	毎月の家族へのお便りにてその都度報告している。	×		○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。（家族会、行事、旅行等への働きかけ）	△	現在、家族会はない。運営推進会議や行事等で触れ合うことはある。				
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	○	できるだけ自分のできることは自分でできる様に支援しているが、転倒のリスクも大きい。見守り、環境整備等の支援について伝えつつ、リスクについても伝えてご理解をいただいている。				
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時は、必ずスタッフが本人の様子を家族に伝え、家族からの気になること等、家族の思いを聞くようにしている。玄関には「意見箱」を設置している。			○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	具体的に内容を説明して理解、納得を得ている。				
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退居については、家族、本人にとって一番良い選択肢になるように相談し、納得のいく退居先に移れるように支援する体制がある。				
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。（食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等）	△	契約時は、契約書に沿って丁寧に説明して同意を得ている。変更事項は文章にて示し同意を得ている。				

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	事業所設立当初から、地域運営推進会議等をとおして、事業所の様子や取り組みを伝えているが、それ以外の交流が少ない。	/	◎	/	散歩の際や、事業所周辺で地域の方たちと日常的に挨拶や会話を交わしているが、地域とのつながりができるまでには至っていないので、行事等へ参加し住民との交流を積極的に行うなど、地域との交流が深められるような取組みに期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。（日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等）	○	近隣の方とは、通勤途中や散歩時に挨拶や短い会話を交わすが、それ以上の交流までには至っていない。小さなお子さんを連れて散歩の途中に立ち寄ってくれる方がいて、利用者もスタッフも楽しみにしている。	/	△	△	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	今後の課題である。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	地域運営推進会議に出席して下さる方、ボランティアに来て下さる方は、気軽に立ち寄って下さるが、今後も増えていくよう努力する。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩時に挨拶や会話を交わすが、日常のお付き合いまでにはなっていない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。（日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援）	×	ご利用者の日常的な活動の支援までは働きかけることはできていない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	×	一人ひとりの地域資源の把握は不十分である。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている（公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等）。	△	災害時は、地域の福祉施設に協力を得ることができる関係である。今後は、その福祉施設の行事に参加する等、交流を深めていきたい。消防署へは年2回の非難訓練時や運営推進会議出席時にグループホームの状況を説明し、理解を得ている。他の地域の方々への働きかけは今後努力していきたい。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	少しずつ新しく参加してくださる方が増えているが、地域の方の参加を増やしていくのが課題である。ご利用者は毎回数名参加している。ご家族の参加も開催日を検討することで増えている。	○	/	○	家族が参加しやすいよう開催曜日を調整するなど工夫している。運営推進会議では、外部評価結果や目標達成計画等の取組み状況についても報告し意見交換を行っている。運営推進会議で出た意見については話し合い、運営に活かせるよう努めており、取組み状況については会議で報告している。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況（自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等）について報告している。	○	運営推進会議にて毎回、利用者の生活の状態、グループホームでの取り組みについて報告している。自己評価・外部評価・目標達成計画についても報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	頂いたご意見については、次回の運営推進会議にて状況を報告している。長寿介護課・ユニット・ワン事務局にも伝えている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	テーマに合わせて声をかける方の都合の良い曜日を配慮している。ご家族の都合の良い日に合わせることで、格段に参加が増えている。	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	運営推進会議の内容を、玄関には張り出しているが、ホームページ等には公表していない。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	ユニット・ワン全員で、理念に基づいた新たなケア目標を考えて、決めた。全スタッフは理念を理解し、個々の目標を掲げ、日々取り組んでいる。毎月自己評価を行い、半年に1回管理者と目標の振り返りを行い達成状況を確認する。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	◎	毎月のお便りや地域運営推進会議にて、毎回理念・目標と、日々の取り組みについて伝えている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	各スタッフは、最低年に3回の研修を義務付けられており、研修参加のための年間予算も組まれている。法人内での研修も数多く開催され、スタッフが参加し易い環境である。外部研修はスタッフに合った研修を勧めている。	/	/	/	代表者は内部研修の充実や外部研修参加への支援を行っており、職員が向上心ややりがいを持って働けるような職場環境作りに取り組んでいる。心理カウンセラーの面談を職員全員が受けられるようにしているほか、職員が要望すれば代表者との面談がいつでもできるなど配慮されている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	朝の申し送り時に繰り返し、理念や目標について伝えチームの方向性が同じになるように取り組んでいる。現場で起こっている様々な問題を取り上げ内部研修を行い、スタッフ全員参加で意見を出して皆で振り返りを行っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	年に2回自己評価、管理者評価を代表に提出し、代表による個人面談を行っている。そこで、個々の意見を聞き、職場環境・労働条件の整備に反映したり、本人のモチベーションがアップするような場になるように努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域密着型サービス協会、ケアマネ連絡会、研修等にてつながりを広げている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	介護労働安定センターのカウンセラーの面談を全職員が順番に受けることができる。必要時は、代表者との面談もいつでも可能であり相談ができる。	◎	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	外部研修に参加している。内部研修も積極的に行っている。3か月に1度、高齢者虐待防止についてのミーティングを行っており、繰り返し学び理解を深めている。	/	/	/	虐待やどのような言動が不適切なケアにあたるか、それにつながる理由を職員一人ひとりが考える機会を作っている。防止策を内部研修で学んで情報を共有しており、対応手順も話し合っている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	朝・夕申し送り時、日々のケアについて話している。日常的に2～3分でもケアについて振り返ったり話し合ったりする機会を意識して持っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	朝の申し送り時や内部研修等を通して、理念や目標を確認し、常に意識できるように努力している。3ヶ月に1度虐待についての内部研修を行い、不適切なケアについてさらに全スタッフの理解が深まるよう努力している。	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	ケアはチームで行うものと考えている。、スタッフが困難だと感じているケアはスタッフ同士、相談しあったり、交代したりできる関係であり、必要時はリーダーや管理者に相談できる。	/	/	/	
44	身体拘束をしない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	虐待防止・身体拘束の適正化の研修は受けているが、全スタッフの理解を深める努力はこれからも必要である。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	3ヶ月に1度の「虐待防止・身体拘束の適正化」の内部研修時に、点検の機会を設けている。日常的にも、その行為が虐待・身体拘束に当たらないか意識している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	家族に丁寧に繰り返し説明し、理解を得る努力をしている。取り組みの工夫やリスクも含めて丁寧に伝え、コミュニケーションを取り信頼関係を築く努力をしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する 制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	○	研修を受けている。全スタッフへの周知の努力が今後必要である。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	対象となる利用者はいないが、必要時はいつでも相談にのることができる。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	地域包括支援センター、社会福祉協議会とはすぐに連携が取れる。ユニット・ワンの弁護士にも相談できる。				
46	急変や事故発生時の 備え・事故防止の 取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	緊急時の連絡体制のマニュアルがあり、全スタッフが周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	応急処置のマニュアルがある。利用者個々の発症し易いリスクは常に意識しており、日常的に、看護師等と情報を共有して対応できるようにしている。傷等と応急処置ができるように救急ボックスも用意している。今後、定期的な訓練を内部研修として行いたい。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ユニット・ワン共通のインシデント・アクシデントの報告書があり、早めの対応で事故予防に役立っている。事故報告書は朝・夕の申し送り時等によりできるだけたくさんのスタッフの意見をまとめ対応策を考えている。代表にも報告書を提出し、対応についての指導を頂く。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	個々の利用者のリスクについては、朝・夕の申し送り時等を通して日常的に把握・共有して予防に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と 改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情対応のマニュアルはある。利用者、家族の思いに寄り添うケア、常に相談し合う関係性を心がけている。スタッフは常に、リーダー・管理者と情報を共有しており早めの対応を行っている。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	◎	利用者・家族からケアや生活について、苦情が寄せられた場合は、速やかに対応している。必要時は市町村にも報告するが、今までそのような事例はない。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情が寄せられた場合は、速やかに対応し、前向きな話し合いと関係づくりを行いたい。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	利用者と挨拶を始め、会話を大切にしている。利用者が気軽にスタッフに思いを伝えられるように努力している。利用者が伝えてくれた意見や要望、苦情に速やかに対応している。運営推進会議にも、本人の了解を得て毎回数名出席していただいている。			◎	利用者からの意見や要望は、日常生活の中で常に汲み取れるように会話を大切にしている。家族が意見や要望を伝えられる機会もあり、速やかに対応している。管理者は職員と一緒に利用者の支援を行っており、職員は意見や要望を伝えやすい環境にある。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族とのコミュニケーションを大切にしている、面会・お便り・電話等機会あるごとに本人の情報を伝え、家族の思いを聞くようにしている。運営推進会議の曜日設定を検討することで、家族の参加が増えている。	○		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関に紙面にて表示している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は月に1回の管理者会にて現場の様子を把握し、必要時は現場にてスタッフの意見を聞く。年に1～2回、全スタッフと面談を行っている。管理者と相談しながら必要時は随時面談を行っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	朝・夕の申し送り時にそれぞれが意見を伝えることができる。常に理念・目標を意識し利用者本位のケアを目指している。管理者は常に現場におり、日常的にスタッフと相談ができる。			◎	

愛媛県グループホームユニットまつやま

項目 No.	評価項目	小 項 目	内 容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	自己評価の項目を全員で確認しながら、サービスの向上に努めている。				サービス評価の結果や今後の取り組み、目標を地域包括支援センターや運営推進会議のメンバー、家族などに報告しており、事業所のステップアップにつなげているが、取り組みのモニターをしてもらうまでには至っていないので、今後に期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を通して、必要なことの再確認ができ、課題が明確になり意識統一や学習の機会となっている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	◎	事業所全体で取り組んでいる。近所の保育園との交流が実現できた。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	毎月のお便りや地域運営推進会議にて、評価結果や目標達成計画を紙面にて報告している。地域運営推進会議には地域包括支援センターのスタッフも参加していただいている。	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議にて報告し、その内容を玄関ホールに掲示している。朝の申し送り時や紙面にてスタッフ間でも情報を共有している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	対応マニュアルを作成している。具体的な対応については、今後も繰り返し訓練をし、地域や関係機関との連絡体制も強化していく必要がある。				様々な想定で避難訓練を行い、消防署のアドバイスを受けている。近隣の施設と災害時の協力体制を構築しているが、さらに日頃からの連携を深めていきたいと考えている。地域の避難訓練に参加して協力体制等について話し合う場を作り、緊急災害時等の連携強化に努めるなど、万全を期することに期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年2回避難訓練を行っている。今後も色々な想定の実訓練を計画したい。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	保安協会、消防署の定期点検を受けている。非常食等の点検は係を決めて行っている。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議等とおして、地域住民や消防署との連携を大切にして訓練や相談をしている。近くにある福祉施設へは緊急時の避難場所として、協力支援体制を確保している。更に日頃から連携を図り、話し合いの機会を持つのが課題である。	×	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	地域の防災訓練には今後積極的に参加したい。運営推進会議に地域の防災士に参加していただき相談にのっていただいている。緊急時の災害避難場所の協力支援をお願いしている福祉施設との連携を強めていきたい。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	認知症ケアについての内部研修は行っている。今後、運営推進会議等で研修内容や認知症ケアの取り組みについて報告し、地域の方からご意見を頂いたり、相談を受けたりできるようなグループホームを目指して努力したい。				地域の高齢者や家族から相談があれば対応できるようになっているため、地域に向けて認知症などの相談ができることを周知していきたいと考えており、今後の取り組みに期待したい。地域関係機関等と連携し、地域イベント等を開催するなどの取り組みが望まれる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	見学や相談は随時受け付けている。地域の方の相談はなかったが、今後、地域運営推進会議等をおして認知症についての相談ができる事をお知らせしていきたい。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	地域の方たちの為に事業所を解放するようにはなっていない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	地域の中学生やボランティアの実習や研修の受け入れがある。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	地域活動には至ってない。			×	